

I 投稿規定 (2003年7月作成, 2012年11月第5改訂)

1 概要

Journal of Rehabilitation and Health Sciences (JRHS) (以下, 本誌) は, リハビリテーション分野を中心とした研究論文や教育論文などを掲載し, 当該関連分野の発展に寄与することを目的とする. JRHS編集部 (以下, 編集部) が本誌を編集しオンラインジャーナルとして公表する.

2 投稿資格

- (1) 本学部の教員
- (2) 編集部が適当と認めた者

3 原稿の種別と執筆

種別は『総説』, 『原著』, 『短報』, 『速報』, 『報告』, 『解説』, 『講座』など (種別の概要参照) とし, 未発表のものに限る. ただし編集部の判定により種別の変更を求める場合がある. また, 招待論文などを掲載することもある.

原稿は「II 原稿執筆要領」にしたがって執筆する. 『総説』, 『原著』, 『短報』, 『速報』, 『報告』は日本語あるいは英語で執筆し, 『解説』, 『講座』などは日本語で執筆する.

英文 (表題, 抄録, 本文) は, 内容のわかるネイティブスピーカーが校閲したものを受け付ける.

種別の概要

総説: 興味深い最新の科学的知見について総合的に論じたもの, または著者の研究成果を中心に総合的に論じたもの.

原著: 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で完成度の高いもの.

短報: 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究であるが, 断片的な研究であってよい.

速報: 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で緊急性を要するもので, 断片的な研究であってよい. この内容は, 本誌あるいは他誌へ完成度の高い原著論文として公表してもよい.

報告: 以下のいずれかの内容のもの.

- (1) 役に立つ研究手法・技術の工夫や開発
- (2) 資料的価値のあるもの
- (3) 講演などの記録や講演の内容などを中心にまとめたもの
- (4) 種々の研究費を受けた場合の研究成果報告書
- (5) その他

解説: 興味深い科学的知見や技術について解説し, 教育的内容を含むもの.

講座: 興味深い科学的テーマについて連続して解説し, 教育的内容を含むもの. また, 本学が中心となり開催した公開講座などの内容をまとめたもの.

4 ヒトを対象とした研究や動物実験に関する倫理基準

ヒトを対象とした研究の場合は, ヘルシンキ宣言 (1964年採択, 2008年修正) の倫理基準にしたがう. 動物実験の場合は, 文部科学省の策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(2006年), 日本学術会議の策定した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」(2006年) などにしたがう.

投稿論文は、所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたもの、所属機関の定める動物実験ガイドラインや規程などにしたがって実施されたもの、に限って受け付ける。また、投稿論文が上記の指針やガイドラインにしたがって実施されたことを本文中に明記する。

5 投稿方法

図・表を含む原稿を1つの Word[®] ファイルとし、E メール（以下、メール）に添付し、編集員あるいは Web サイトの“CONTACT US (JRHS)”へ送信する。

メールの件名には「JRHS 投稿原稿」と記入し、メール本文には投稿論文の内容に精通した査読者2-4名の氏名を記載する。さらに、推薦した査読者の連絡先（所属、住所、メールアドレス、電話番号）を記載する。

投稿後、1週間以内にメール受領の連絡が届かない場合は確認してください。

6 原稿の受領

投稿規定および原稿執筆要領にしたがって作成された原稿に対しては、担当編集員から「原稿受領書」が連絡著者に発行される。なお、投稿規定および原稿執筆要領から著しく逸脱した原稿は受領前に修正を求める。

7 査読制度

投稿原稿は、連絡著者が推薦した査読者（2-4名）を考慮して編集部が適切と認めた査読者（原則として2名以上）の意見をもとに編集部が採否を決定する。

投稿原稿の改訂を求められた際には、指定された提出期限までに改定原稿を提出する。提出期限を過ぎた場合は再投稿扱いとなる。

投稿原稿が受理された場合には、担当編集員から「原稿受理書」が連絡著者に発行される。

8 校正

初校には最終原稿は添付しない。初校は著者が校正する（著者校正）。その際、組版上の誤り以外の字句の訂正、挿入および削除は認めない。ただし、編集部が特別の事情があると認めた場合は許可することがある。著者校正は1回である。

校正済み初校は担当編集員に提出する。

9 著作権

本誌に掲載されたものの著作権は大阪府立大学に属する。

10 掲載費用

掲載費用は無料である。別刷は PDF ファイルとして無料で配付するが、紙媒体の別刷費用は有料となり、カラー印刷費用など特別に派生した費用は追加料金が必要である。

II 原稿執筆要領 (2003年7月作成, 2011年11月第4改訂)

1 一般的注意

- 1.1 原稿の長さは原則として刷り上がり10ページ以内とする。
- 1.2 原稿は Word[®] で作成する。用紙サイズは A4 とし、上下左右に約 3 cm の余白をとり、ダブルスペース、10 - 12ポイントで作成する。
- 1.3 和文の場合は、句読点を“.”と“,”にする。英文の場合は、アメリカンスタイルとする。
- 1.4 図(写真)、表の挿入希望位置は Word[®] の「コメント機能」を使用して指示する。
- 1.5 図(写真)、表なども含めて全ページに通し番号を原稿の下中央に入れ、表紙を第1ページとする。

2 表紙

- 2.1 表紙には、和文で種別、表題、著者名、所属、住所を、次に英文で表題、著者名(フルネーム)、所属、住所を記入する。連絡著者にはダガー(†)を付ける。
- 2.2 Key words は原稿の内容を的確に表現しうる3-6個の単語または句を選び、2.1項の後に記入する。和文論文の場合は、英語で記載し、そのあと()内に日本語で記載する。これらの単語(句)はセミコロンで区切る。
- 2.3 編集部との連絡のために、表紙末に Word[®] の「テキストボックス作成機能」を使用してテキストボックスを作成し、その中に和文で連絡著者名、連絡住所、電話番号、Fax番号、メールアドレスを記入し、英文論文や抄録(英文)を含む場合は、英文チェック済みであることを示すために、チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)を記入する。2.3項のうちメールアドレス以外は公表時には記載されない。

3 抄録

- 3.1 抄録は英語で執筆する。語数は300語以内とし、原稿の第2ページに記入する。
- 3.2 和文論文：原著には抄録を付ける。総説、短報、速報、報告にも抄録を付けることが望ましい。
- 3.3 英文論文：原著には抄録を付けるが、短報や速報には付けない。必要に応じて総説、報告にも抄録を付けてもよい。

4 本文

- 4.1 本文は第3ページから始める。抄録を付けない場合は第2ページから始める。
- 4.2 本文は原則として、序文(はじめに)、方法(材料と方法)、結果、考察、結論(むすび)、謝辞、文献の順に記す。結果と考察の内容をまとめて結果および考察としてもよい。見出しのレベルはポイントシステムで示す。すなわち、
 - 1 大見出し
 - 1.1 中見出し
 - 1.1.1 小見出し
 とする。また、「小見出し」以降、および「箇条書き項目」などについては、(1), 1), ①の順に用いる。
- 4.3 本文中で脚注(備考や注釈など)が必要な場合は、アスタリスク(*)を語句の右肩に付け、Word[®] の「テキストボックス作成機能」を使用してテキストボックスを作成し、その中に説明を記載する。
- 4.4 記号と符号は国際的に慣用されているものを、また単位は原則としてSI単位(国際単位)を使用する。なお、当該領域において使用が認められている特殊な単位は使用できる。

- 4.5 略語は初出時にスペルアウトし，その直後の（ ）内に示し，以下その略語を用いる。
 4.6 英文論文の場合も，上記に準ずる。

5 文献

- 5.1 引用文献は，本文中では引用する箇所の右肩にアラビア数字で上付きの通し番号^(1, 2, 3, 1, 6-10)をつけ，文献欄に引用順に一括掲載する。番号は文献ごとに付け，1つの番号に複数の文献を引用しない。本文中に著者名を引用する場合は，混乱の起こらない限り姓のみとする。
- 5.2 私信，未発表結果，投稿中の論文，新聞記事，パンフレット，単なる報告書などは文献欄に入れず，本文中に括弧に入れて引用する。
- 5.3 文献欄における引用文献の略し方は，<http://www.issn.org/2-22661-LTWA-online.php> にしたがうが，略記形が不明の場合は，完全誌名を記載する。
- 5.4 文献欄における著者名は著者全員を記載する。ただし多数の著者で書かれた文献を引用する場合は，原則，第3著者までを記載し，第4著者以後の著者を，和文の場合は“ほか”，英文の場合は“et al.”と略す。
- 5.5 文献の書き方を以下に示す。原則として ICMJE (1997) Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals. *N Engl J Med*, 336:309-315 の勧告を取り入れる。
- 5.5.1 学術雑誌の場合
- 1 玉木彰, 松尾善美, 阿部和夫 (2000) Parkinson病患者の呼吸機能に与える胸部および腹部運動の影響について. *理学療法学*, 27:217-222.
 - 2 松本茂樹, 辻薫, 岸良至 (1994) 作業療法での床上姿勢を考える - 小児領域の立場から. *OT ジャーナル* No.2:169-174.
- [注：号の使用は通しページの無い雑誌に限る]
- 3 Cattanco L, Rizzolatti G (2010) The mirror neuron system. *Arch Neurol*, 66:557-560.
 - 4 Gowland C, de Bruin H Jr, Basmajian VJ (1992) Agonist and antagonist activity during voluntary upper-limb movement in patients with stroke. *Phys Ther*, 73:642-633.
- 5.5.2 書籍の場合
- 5 岩内亮一 (1993) “社会問題の心理学”, 学文社, 東京, pp.57-60.
 - 6 Raven JC, Court JH, Raven J (1990) “Manual for Raven’s Coloured Progressive Matrices,” Oxford Psychologists Press, Oxford, pp.5-25.
- 5.5.3 編者がありまた多数の著者で書かれた書籍から特定の文献を引用する場合
- 7 金子丑之助, 山田始 (1985) 視神経の観察, “日本人体解剖学”(山村雄一, 古賀真一編), 第3巻, 南山堂, 東京, pp.100-127.
 - 8 Horn S (1997) Towards a therapeutic alliance model of rehabilitation, “Rehabilitation Studies Handbook” (Wilson BA, McLellan DL, editors), Cambridge University Press, Cambridge, pp.75-93.
- 5.5.4 訳本の場合
- 9 Kielhofner G (1992) “Conceptual Foundations of Occupational Therapy” (Davis FA, editor), 1st ed., Academic Press, New York. [山田孝, 小西紀一訳 (1993) “作業療法の理論”, 三輪書店, 大阪, pp.13-94.]
- 5.5.5 報告書・学会発表の場合
- 10 齋藤洋一 (2009) 霊長類視床痛モデルによる難治性疼痛の脳内機序解明と新たな治療法の開発, 平成19年-20年度文部省科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究成果報告書.

- 11 細見晃一 (2008) 難治性神経因性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激法, 第38回日本臨床神経生理学会学術大会抄録集 (神戸), p.56.

5.5.6 掲載決定の通知を受けた投稿論文を引用する場合

- 12 佐藤真一, 島内晶 (2011) ADL 障害の評価とリハビリテーション. 老年精神医学雑誌, 印刷中.
- 13 Casanova MF, Starkstein SE, Jellinger KA (2011) Clinicopathological correlates of behavioral and psychological symptoms of dementia. *Acta Neuropathol*, in press.

5.5.7 特許の場合

- 14 山岸喬, 早川一蔵 (1966) 特許公告, 昭和 41-730.
- 15 Bishop CE (1973) US Patent, 3, 770, 782.

5.5.8 ウェブサイト資料の場合

- 16 日本脳卒中学会 (2009) “脳卒中治療ガイドライン2009”, 日本脳卒中学会 < <http://www.jsts.gr.jp/jss08.html> >. [accessed 17 October 2011]
- 17 World Health Organization (2011) “Disabilities and rehabilitation,” World Health Organization < <http://www.who.int/disabilities/en/> >. [accessed 17 October 2011]
- 18 Housman SJ, Scott KM, Reinkensmeyer DJ (2009) A randomized controlled trial of gravity-supported, computer-enhanced arm exercise for individuals with severe hemiparesis. *Neurorehabil Neural Repair*, 23:505-514, doi: 10.1177/1545968308331148, < <http://nnr.sagepub.com/content/23/5/505> >. [accessed 17 October 2011]

5.6 英文論文の場合も上記に準ずる.

6 図 (写真), 表

- 6.1 図 (写真), 表には, それぞれアラビア数字で一連の通し番号 (Fig. 1, Table 1) を付け, 原稿の最後に添付し, 1つの Word® ファイルとする. なお, 本文中で引用する場合は, Fig. 1, Table 1 とする.
- 6.2 図 (写真) のタイトルと説明文は, 引用文献欄のつぎに一括してまとめる.
- 6.3 他文献から図 (写真) などを転載する場合は, その転載許可を著者の責任において取得しておく.
- 6.4 出稿時に元の図, 表作成ファイルの提出を求めることがある.
- 6.5 英文論文の場合も上記に準ずる.